2024 年 3 月

第 162 号

ぱれっと

㈱北日本ベストサポート
℡ 018-883-1888

「日本 GDP 世界 4 位に転落」

内閣府が2月15日発表した2023年の名目国内総生産(GDP)が日本は前年比5.7%増の591兆4820億円となったが、ドル換算にすると4兆 2106 億ドルでドイツの名目 GDP4兆4561億ドルを下回り、米国(27.4 兆ドル)、中国(17.7 兆ドル)、ドイツに次ぐ4位となった。

日本は1968年に旧西ドイツを抜いて世界第2位の経済大国となり、「ジャパン・アズ・No.1」などともてはやされ、それにうかれていた面もあったかもしれない。

その後、バブル崩壊後の不況の長期化で2010年には中国に追い抜かれ3位となっていた。長引くデフレの中で、企業はコストカットを最優先し、賃上げや新たな投資を怠ってきた。また、円高の進行もあって、安い労働力を求めて製造業は生産拠点を海外に展開したため国内産業の空洞化もあった。その結果、消費が停滞しそれに伴って物価が低迷、経済成長が長期に亘って足踏み状態となった。

為替レートは21年110円前後から、23年には140円から150円で推移したため、2000年には日本の一人あたり名目 GDP が先進7ヵ国(G7)でトップであったが、現在では最下位で、経済協力開発機構(OECD)加盟38ヵ国中21位となり、22位の韓国に肉薄されている。

進むことが分かっている少子高齢化による人手不足の対応にも遅れ、さらに、女子の社会参加にも遅れが目立ち経済成長の妨げの要因となっている。

ドイツでは1990年南北統一後に失業率が悪化し「欧州の病人」と言われたが、欧州連合(EU)統合を機に、法人税の引き下げなどを行い国内に工場建設や誘致を積極的に行い、更に、2000年代には大胆な労働市場改革を断行し、ロシアからの安価な天然ガスを使用し、中国向けの自動車輸出を増加させ、経済成長への取り組みを最優先させた政策を実施してきた。

日本の GDP を中国が抜いた10年と21年の GDP を比較すると、中国は2．9倍、首位の米国も1.5倍に増加しているが、日本は逆に0.8倍に減少している。(世界銀行調べ)

最近では政府も経済界も労働界も揃って賃上げを呼びかけている。これは、消費拡大を図り GDP 拡大策のひとつとしようとするものでもある。特に大企業は長期間に亘って主として資本の蓄積に取り組んできたが、労働力の確保、賃上げ、設備投資などに積極的に取り組み、生産性の向上など総合的な経済の発展に寄与していただきたい。

日本の GDP 向上は世界における発言力確保の為にも真っ先に取り組まなければならない喫緊の課題となっている。

『期待以上の価値』への挑戦

元慶應義塾大学　名誉教授　　村田　昭治

成功する起業家は七つのCをもつ

「期待以上の価値」とは大変なことだ。仕事をするからには、お客様がいる。取引先がいる。その人たちが求める価値は何か。標準以上、期待以上の何かだ。

そのなかには商品の力、サービスの力、扱う人の力、接触の仕方、すべての所作が入っている。そのことを思うにつけ、仕事を広げることを考え、その仕事の適当な大きさを考える人が少なくなったことが懸念される。

吉兆の創業者である湯木貞治さんは「商売とは屏風のようなものだ。閉じても倒れるが開きすぎても倒れる」といわれていたという。

成功しいている商売人の考え方、どんなに大きくても小さくても最適に商売をしている人はすばらしい。そのすてきな姿をわたし自身の眼で見てみると、いくつかのＣでまとまるようだ。

一つは　　**好奇心**(curiosity)がある。
二つ目には　**創造性**(creativity)がある。
三つ目には　**挑戦**(challenge)がある。
絶対にあきらめない。そして寝ても覚めても、そのことを考えぬいている姿は美しい。
四つ目に　**コミュニケーション**(communication)
いろんな人の協力を得るために一生懸命に伝達し、教えを乞いに出向いている。自分の持ってる力、
五つ目　**核心**(core)になるところを大事にしている。そういう人は
六つ目　**利口**(clever)で
七つ目　**信用**(credit)がくるものだとわたしは思う。

こうしたものを踏まえて、起業家は勝負するのではないだろうか。

勝負に出るのは、こうした七つのCがバックにあり、誰か後ろから背中を押してくれる人を意識しながら前進していくのだろう。

高村　光太郎　（日本の詩人・歌人・彫刻家・画家）

明治 16 年 3 月 13 日（1883 年）	東京都台東区東上野で彫刻家高村光雲の長男として生まれる。
明治 30 年 9 月（1897 年）	東京美術学校(現：東京芸術大学美術学部)彫刻科入学。文学にも関心を寄せ在学中与謝野鉄幹の新詩社同人となり「明星」に寄稿。
明治 39 年 3 月（1906 年）	ニューヨークに1年2カ月留学。メトロポリタン美術館で彫刻家ガットソン・ボーグラムの作品に出会い感動。同氏の助手となり師事した。昼は働き夜はアート・スチューデンツ・リーグの夜学に通って学んだ。
明治 42 年（1909 年）	その後、ロンドンに1年1か月滞在し帰国。 帰国後、旧態依然とした日本の美術に不満。
明治 43 年 4 月（1910 年）	「白樺」創刊。武者小路実篤らと交友。
明治 45 年（1912 年）	駒込林町にアトリエ建築。
大正 3 年 10 月（1914 年）	詩集「道程」を出版。
昭和 16 年 8 月（1941 年）	詩集「智恵子抄」出版。
昭和 20 年 8 月（1945 年）	「一億の号泣」を朝日新聞に発表。岩手県花巻市に「高村山荘」を建て移住。
昭和 25 年（1950 年）	戦後に書いた詩集「典型」を発表。翌年読売文学賞受賞。
昭和 27 年（1952 年）	青森県の依頼により十和田湖湖畔(休屋)「乙女の像」を建立。(現存している)
昭和 31 年 4 月（1956 年）	自宅アトリエで肺結核のため死去。享年 73 歳。

オススメの BOOK

「日本人の真価」（この国は再生できる）

作者　藤原　正彦　出版社　文春新書

著者はお茶の水女子大学名誉教授（数学）。1943 年旧満州の新京生まれ。作家の新田次郎・藤原てい夫妻の次男として生まれる。戦後 3 歳で 3 人の兄弟、母とともに命からがら帰国した。数学の教授を務める傍ら「若き数学者のアメリカ」や「国家の品格」「名著講義」などの著書がある。

本書は現在「文藝春秋」に毎月、巻頭言を執筆されているが、その中の一部と、母との満州から引き上げてくるときの悲惨な日々。家族の素顔などについて記載されている。

くらしと保険のおはなし

戸籍の証明書の請求が便利になります

令和６年３月１日から、戸籍法の一部を改正する法律（令和元年法律第 17 号）が施行されます。

① 戸籍謄本等の広域交付

本籍地以外の市区町村の窓口でも、戸籍証明書・除籍証明書を請求できるようになります。

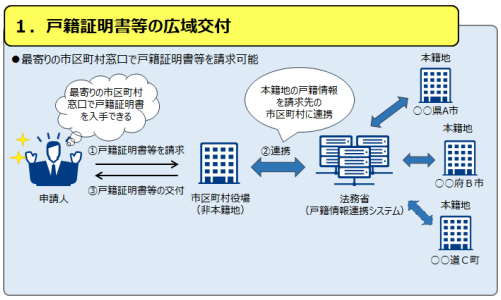
② 戸籍届出時における戸籍証明書等の添付負担の軽減

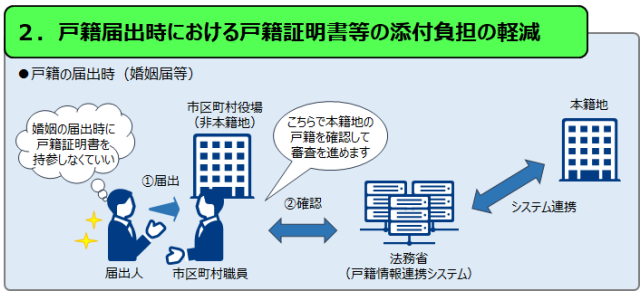
例えば、新婚旅行先の市区町村の窓口に婚姻届を提出する場合など、本籍地ではない市区町村の窓口に戸籍の届出を行う場合でも、提出先の市区町村の職員が本籍地の戸籍を確認することができるようになりますので、戸籍届出時の戸籍証明書等の添付が原則不要になります。

本籍地が遠くにある方でも、最寄りの市区町村窓口に請求できたり、欲しい戸籍の本籍地が全国各地にあっても１か所の市区町村の窓口にまとめて請求できるようになります。

さらに今後は、マイナンバー制度の活用による戸籍証明書等の添付省略や戸籍電子証明書の活用による戸籍証明書等の添付省略が予定されています。

結婚・相続などの行政手続きや各種申請手続きでの負担が大幅に軽減し、戸籍制度が利用しやすくなります。





（法務省民事局資料より）

【編集後記】

今年の冬は異常に気温が高い。2月中旬で夏日となった地域が全国で沢山あった。秋田でも 10度を超えて雪もほとんどない。雪も少なく過ごしやすい冬に違いないが、これで大丈夫だろうかと思わずにいられない。夏場の水不足が懸念される、農作物は大丈夫だろうか、昨年は夏場に猛暑日が続き集中豪雨の被害に遭遇したが同様の事態が生じないか等。

日本には四季がありそれぞれの季節にふさわしい花が咲き、食物が食卓に並び、夜の星空が美しい。情緒豊かな生活には潤いがある。